

ばら切り花の日持ち向上のための前処理法							
<p>【要約】 ばら切り花を水活け状態で低温貯蔵する場合は2.5～7.5℃とする。予冷処理する場合の温度は2.5℃で時間は12時間程度とし、包装資材はポリエチレンフィルム(0.03mm)がよい。また、オゾン水(1ppm1時間)を利用すると水活け後の切り花の日持ちが延長する。</p>							
園芸研究所・野菜花き部・花き花木研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園 芸	専 門	加工利用	対 象	花き類	分 類	普 及

【背景・ねらい】

ばら切り花は需要が安定しているため、冬切り及び夏切り栽培を主体に生産が急速に拡大しているが、施設栽培で夏～秋季の高温期に採花した切り花は鮮度の低下が著しい。そこで、ばらの採花後の切り花に対して、日持ち向上のための貯蔵温度と予冷方法等の前処理法を検討して鮮度保持技術を確立する。

【成果の内容・特徴】

- ①高温期に採花した切り花を水活け状態で冷蔵庫に貯蔵する場合は、2.5～7.5℃が適当である。蕾が小さい場合(開花ステージ1)に0～2.5℃で貯蔵すると低温で花卉が傷んだりペントネック(花首の垂れ)が多発する。また、12.5℃以上の室温では開花ステージが5以上でブルーイング(花卉の青ずみ)しやすい(表1)。
- ②採花後の予冷処理は2.5℃の12時間処理が適当であるが、包装資材の種類ではポリエチレンフィルム(0.03mm)及び有孔ポリエチレンフィルム(0.03mm)が良い。エチレン吸着剤処理紙は日持ち延長効果はあるが、開花が遅れるので適さない(表2)。
- ③採花後の切り花は、予冷処理(5℃ 24時間)後にオゾン1ppm水溶液に1時間浸漬すると水活け後の日持ちが延長する(表3)。

【成果の活用面・留意点】

- ①ばら切り花産地の日持ち向上技術として活用する。
- ②日持ち程度には品種間差異があるが、花卉数の少ないものに利用すると鮮度保持効果が高まる。
- ③オゾン水は濃度が変化しやすいので、一定濃度が保てる発生装置を使用する。

[具体的データ]

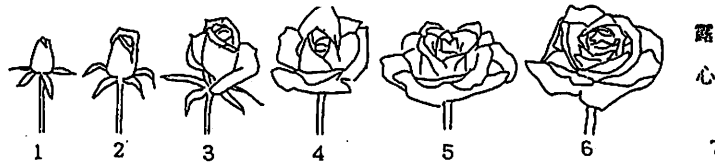


図1 開花ステージ

表1 採花後の水活け温度と日持ち(平成3年)

温度 ℃	採花時 の蕾	開花ステージ		日持ち 日数	障害	温度 ℃	採花時 の蕾	開花ステージ		日持ち 日数	障害
		7日目	14日目					7日	14日		
0	1	2.0	2.3	18	BN, P	10	1	2.5	3.5	13	-
	3	5.2	5.5	14	P		3	5.2	6.1	9	B
2.5	1	2.6	2.8	17	BN	12.5	1	3.3	3.9	11	B
	3	5.5	5.3	14	-		3	5.6	6.2	8	B
5	1	2.3	2.9	19	-	15	1	3.5	4.8	10	B
	3	4.8	5.4	13	-		3	5.9	-	8	B
7.5	1	2.3	2.8	14	-	対照 (室温)	1	4.0	-	9	B
	3	5.0	5.7	10	-		3	6.8	-	6	B

注) ①採花時期: 10月22日、品種「ルーレット」

②日持ち日数: 観賞性がなくなるまでの日数(室温)

③障害: BN ベンネック、P 花卉傷み、B ブルーイング

表2 採花時期及び予冷処理と日持ち(平成3年、4年)

予冷 温度	包装 方法	日持ち日数		
		6月19日	8月10日	10月18日
無処理	-	5.0	4.8	6.1
	無包装	6.2	5.2	6.6
	新聞紙	6.5	5.5	7.8
	ポリエチレン	7.0	5.7	7.9
	FLフィルム	7.4	6.1	8.1
2.5℃	無包装	5.5	4.3	6.4
	新聞紙	5.7	4.4	7.5
	ポリエチレン	5.8	4.7	7.8
	有孔ポリエチレン	6.0	4.9	7.8
5℃	FLフィルム	6.2	5.0	7.9

注) ①予冷時間: 採花後、段ボール箱で12時間、品種「ルーレット」

②ポリエチレン: ポリエチレンフィルム0.03mm、有孔ポリエチレン: 有孔ポリエチレンフィルム0.05mm

FLフィルム: エチレン吸着剤処理紙

③日持ち調査: 予冷処理後、室温で12時間放置した後、水生け調査

表3 前処理方法と日持ち(平成4年)

前処理方法	日持ち日数
水揚げ2時間	7.5
水揚げ6時間→室温12時間	8.0
予冷24時間→室温12時間	8.7
予冷24時間→室温12時間→おろし水1時間	10.0
おろし水1時間	9.2

注) ①室温処理: 箱詰め状態で放置

②予冷処理: 5℃の冷蔵庫

③おろし水: 1ppm水溶液(S社製の

おろし水連続発生装置)

④採花時期: 3月10日

品種「カリムカ」

[その他]

研究課題名: 採花時期と予冷処理方法

予算区分: 県特

研究期間: 平成4年度(平成2~4年)

研究担当者: 小林泰生、谷川孝弘、坂井康弘

発表論文等: 平成3~4年度園芸研究所野菜花き部花き花木研究室試験成績書